

秩父・皆野新校準備委員会（第2回） 議事録

- 1 日 時 令和5年6月5日（月） 午後1時30分開会
午後3時30分終了
- 2 会 場 県立秩父高等学校図書館2階研修室
- 3 出席委員 依田委員長、守屋副委員長、浅見副委員長、飛川委員、嶋田委員、三橋委員、安藤委員、松本委員、大沼委員、小菅委員、浦島委員、若林委員、横田委員、田島委員、廣川委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本

5 協議等 「秩父・皆野新校基本計画骨子（案）」について

依田委員長 前回の委員会では、両校において作成いただいた新校基本計画検討案に対して、御意見を伺いました。その詳細については、第1回の新校準備委員会議事録のとおりです。その後、事務局において、前回の委員会及び学校職員等で構成される新校基本計画検討委員会でいただいた御意見等を踏まえその内容を検討するとともに、新校の学科名や学級規模についても検討し、まとめた骨子案が「資料1」です。それでは、「資料1 秩父・皆野新校基本計画骨子（案）」の説明を事務局からお願いします。

事務局 （秩父・皆野新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模について説明）

松本委員 学科について心配していることがあります。この春の入学希望者のデータを見てみますと、国際系の学科の倍率が高くないんですね。逆に倍率が高いのはいわゆる進学校です。浦和高校の2.2倍を筆頭に進学校が並んでいます。専門学科では理数科が倍率の上位を占めています。そういった状況の中で、国際系を取り上げた根拠は何か、というところを伺いたいと思います。私が申し上げたことは県教育委員会が公表している資料を基にしており、県教育委員会としてこの状況をどのように分析、認識されているのか、御説明いただきたいと思います。

依田委員長 学科名の原案を国際探究科とした理由についてということでしょうか。

松本委員 専門学科として、なぜ国際に関する学科を設置することにしたのかをお伺いしたいと考えています。

依田委員長 もう少し根源的なお話ということですね。事務局お願いします。

事務局 令和5年度の入学者選抜の志願状況については、松本委員がおっしゃるとおりです。進学校や理数系の学科の倍率が高い状況は、傾向としてずっと続いております。実は国際に関する学科は現在の埼玉県にはなく、それに近い学科として外

国語科があります。この学科の倍率は年度ごとに波を打つ傾向がありますが、全体的に見ればそこまで悪くないというのが我々の見立てです。外国語科は留学等海外との交流を前提としているようなところがあり、その活動ができなくなったコロナ禍において若干倍率が低迷した時期もありましたが、もともと東京オリンピックの前後で考えると高い倍率を維持しておりました。外国語科と国際に関する学科は、細かく見ていくと少し違うところもあるのですが、中学生が同じように興味・関心を示す分野ではないかと考えています。この春は確かにそのような傾向があったのですが、長いレンジで見ると、まだまだ志願者を集める余地のある学科であると考えています。志願倍率を予想するという意味においては、我々はこのように考えました。もともと国際に関する学びは、小さい頃から外国語を学んでいくというこの地域の学びの特性を踏まえており、観光資源の活用というところも、そこに結び付けていければと考えています。

松本委員 ありがとうございます。もう一点関連なのですが、前回の委員会の中で、アンケートを取りましょうという意見が出て、これから調整するという説明がありました。アンケートのタイミングを逸してしまうと全く意味のないものになってしまいます。実は今回の会議資料にアンケート結果がある程度出るのかなと思っていましたので、伺いました。特に中学生の進路の決定には保護者の意見がものすごく大事で、私も就職の関係の仕事をしていますが、学生さんは保護者の意見を聞いて進路を選ぶんですね。ですので、学生さんや保護者の皆さんなど、地域の方々がどんな希望を持っているのか、できるだけ早くニーズをキャッチしていただいて、次のステップにつなげていかないと、私どもではその辺りが分かり兼ねる部分もありますので、客観的な資料が是非ほしいと思います。

依田委員長 ただいまの御意見については協議の最後に改めて取り上げたいと思います。

若林委員 参考資料4に第1回の議事録がございます。この時に私が述べた意見の関係なのですが、再編整備の必要性については理解している。各市町議会において反対の声があったと思うが、どう対応したのか。また1市4町の首長も反対の要望書を提出している。これについて回答がないのではないかと質問しましたが、現時点ではまだ回答は出ていないのでしょうか。この点をはっきりしてから進めていった方がよいと思うのですが、いかがでしょうか。

依田委員長 今の御意見は、一旦協議を止めて、まず意見、要望への回答があったかどうかを聞きたい、ということよろしいでしょうか。

若林委員 はい。

依田委員長 それでは一旦協議を止めて、若林委員の御質問について事務局から説明を求めるということで、委員の皆様よろしいでしょうか。

(了承の声)

依田委員長 それでは若林委員の御質問について事務局から説明をお願いします。

事務局 お話のとおり、1市4町の首長からの要望書及び市町議会からの意見書を頂戴しています。要望書と意見書に分けて、説明いたします。1市4町の首長からの

要望書については、令和4年7月5日に、秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町から「秩父地域の県立高等学校4校の存続に関する要望書」を受領しております。その際、県教育長が直接対応しており、「皆さんのお気持ちは十分に理解できる。ただ、未来の子供たちの教育環境をしっかりと整えていくためには県立高校の再編整備は避けて通れない。秩父地域の4校を維持していくのは難しい。」という旨、口頭でお伝えさせていただきました。その後、7月14日に第2期実施方策（案）を公表し、学校関係者説明会や県民コメントを実施しました。地域の方々を含めた多くの県民の皆様から、御意見を頂戴したと捉えております。10月27日は第2期実施方策として正式に策定したわけですが、地元はもとより、広く県民の皆様の御意見を伺った上で策定したものと理解しております。市町議会からの意見書については、9月14日に小鹿野町町議会から「秩父地域の県立高校4校の存続を求め、皆野高校と秩父高校の統合計画に反対し、撤回を求める意見書」を頂戴しました。9月15日には皆野町議会から「埼玉県教育委員会による皆野高校と秩父高校の再編統合に反対する意見書」を頂戴しました。10月20日に秩父市議会から「秩父地域の県立高校4校の存続を求め、皆野高校と秩父高校の統合計画に反対し、撤回を求める意見書」及び「県立高校再編整備に関しての意見書」を頂戴しました。これら議会からの意見書については、内容をしっかりと受け止めさせていただいているところですが、県といたしましては、こうした意見書に対して通常回答を行ってはならず、今回も同様の対応となっております。事実関係については以上でございます。

依田委員長 若林委員、どうぞ。

若林委員 早速、口頭での回答をいただきました。文書による回答は行わないと解釈してよろしいでしょうか。また、議事録には、議会からの意見書に対して回答という形はとっていない。となっており、首長からの要望書については触れていないように見えますが、この点についていかがでしょうか。

事務局 参考資料4に首長からの要望書についての記載が抜けているという御指摘だと思いますが、前回の委員会では首長からの要望書という話もあったので、先ほどの事実関係の説明では要望書と意見書を分けて説明させていただきました。議事録は確かに議会からの意見書についてという表現になっておりますが、事実関係としては説明のとおりでございます。

若林委員 非常に役人らしい、質問の趣旨に対してははっきりしない答弁だなと感じました。こういうところははっきりしておいたらどうでしょうか。私も同窓会長という立場上、様々な意見を聞いています。首長や議会が反対の意見を出した中ではありますが、この状況は仕方ない、とみんな認めているわけです。口頭でなく文書で回答してはいかがでしょうか。

依田委員長 一旦、整理をしましょう。事務局からは、首長からの要望書については口頭で回答している、議会からの意見書については通常回答しておらず、今回についても回答はしていないという説明がありました。それに対し、若林委員としては、首長からの要望書と議会からの意見書の両方について文書で回答すべきというこ

とでよろしいでしょうか。

若林委員 はい。

依田委員長 では、この御意見について、事務局から何かありますか。

事務局 この場で判断をして話せることはこれ以上ありませんが、議会からの意見書については、地方自治法第 99 条が法的根拠であるという認識であり、県としてはそのとおり対応しているということになります。

依田委員長 若林委員、何かありますか。

若林委員 地方自治法は確かにあるかもしれませんが、余りそういったことにこだわらないで、そういった御意見は承るが、今の状況としてやむを得ない。という回答をすれば済むことではないかと思うところです。

依田委員長 この件は一旦私の方であずからせていただく形でよろしいでしょうか。

若林委員 はい、結構です。

依田委員長 では、若林委員の御意見として一旦私の方であずからせていただきましたので、この話題については終わりにしたいと思います。他の委員からこの件について更に御意見はございますか。

小菅委員 5月27日の読売新聞に、過疎地の公立校が統廃合限界という見出しで記事が出ていました。その中で、過疎地化少子化が進む地域での公立高校の定員割れ、人口流出ということが当たり前のように書かれていて、そうだよなと頷ける内容でした。統合についてはやむなしと私も考えています。ただ少し引っ掛かるのが国際探究科についてです。果たして国際探究科が子供たちにどれだけ魅力があるのか、という観点で考えたときに、どうなのかなと考えてしまいます。魅力ある学校づくりとあって、魅力とは何かと考えますと、子供たちからすれば行きたい学校だと思っうんですよね。また、保護者からすれば行かせたい学校、教員からすれば赴任したい学校、地域からすれば地域を盛り上げてくれる学校、そういう学校が魅力ある学校なのだと思います。そうしたときに、国際理解、グローバル人材、国際探究というものが、子供たちや保護者にとって、果たして魅力があると受け取られるかどうか、結果として子供が集まらなかったら、定員割れや人口流出などの課題が改善できないのではないかと思うんですよね。前回の委員会でも発言したのですが、秩父を盛り上げるということを考えたときに、子供たちが目を引く、心を引く、秩父に人を集めるということを考えてときに、越生・鳩山新校が打ち出しているようなアニメや芸術分野で活躍できるような学校にするということであれば、それなりに魅力が出てくるかなと私は感じています。秩父はアニメ三部作が出てアニメの聖地とも言われています。皆野町は「のだめカンタービレ」の作者を輩出しています。私も秩父高校の卒業生ですが、私の同級生で有名な声優になられた方もいます。このように考えると、秩父を魅力的に考えるためには、子供や保護者の心をくすぐるような学校、学科をイメージしていただいた方が、人が集まるのではないかなと私は思います。そして、人の集め方というのは、地元だけではなくて、他地域や外国からも来てくれるのではないかと、という希望も生まれるので、そういった魅力ある学科にしていきたいと思っています。

依田委員長 ありがとうございます。事務局、何かありますか。

事務局 2月6日の第1回委員会と重複してしまい恐縮ですが、小菅委員から御指摘いただいたことが、新校の魅力づくりのヒントになってくると我々は捉えています。越生・鳩山新校の統合については、現在の越生高校に美術科という学科があって、この学びをコアとして、そういった学びを進めていこうと考えたからです。秩父・皆野新校については、観光資源が大きな宝であると考えており、地質などの自然もそうですが、アニメーションも大変大きいと考えています。探究活動の中にそういった要素を取り入れることは十二分に可能ですので、学科名についてはまだ確定ではありませんが、探究という言葉を入れたということには、そういった思いが込められております。日本のアニメーションは世界的にも多くのファンを持っていますので、インバウンドということで、海外の方が入ってくるということも十分あり得ると考えています。目指す学校では、観光としていますが、中身の部分としては、当然アニメーションも含まれるものと、我々は考えています。

依田委員長 ありがとうございます。他の委員から御意見はございますか。

浦島委員 現在は資料に沿って学科名から順に検討していると思いますが、内容が固まらないと学科名も決まらないのではないかと考えます。内容を精査してほしいという話もありましたので、学ぶ内容によっては国際探究科ではなく、例えば国際観光科など他の学科名になる可能性もあるのに、学科名から決めてしまうことに疑問を持ちました。秩父高校と皆野高校が取り組んでいる教育活動は当然御存じだと思いますが、実際に秩父高校ではオーストラリアのロビーナ高校と提携して交換留学を行っています。先ほど国際に関する学科でこれから留学等もやっていきたいという説明がありましたが、既に秩父高校ではやっていることなんですよ。今の取組をどの程度大きくできるのかという説明なら分かりますが、先ほどの御説明ですと、これまで取り組んできたことを述べているだけの印象です。皆野高校でも地域の御菓子屋さんと提携してみそぽてサブレを作って地域で販売しているなどの取組があります。そういう取組を見てもらっているとは思いますが、少しどうなのかな、と正直思いました。

依田委員長 浦島委員から、学科名よりも内容の検討が先ではないかという御意見がありました。先に内容について皆さんから御意見いただけるようにしたいと思いますがよろしいでしょうか。

(了承の声)

依田委員長 御了承いただきましたので、ここで学科名の検討については一旦止めまして、内容について先に検討を行いたいと思います。まず、基本理念の説明について事務局に説明を求めます。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画骨子(案)のうち基本理念(目指す学校、育てたい生徒像)について説明)

依田委員長 それでは基本理念について委員の皆様から御意見を賜りたいと思います。

守屋副委員長 目指す学校のアからウの並びについて、一番に地域の観光資源という

文言が来るのは少しリアルすぎるのではないかと感じました。イの記載を一番に掲げ、次に秩父高校が今まで進学校としてやってきたことも踏まえ、ウの進学を重視した～を持ってきた後で、地域の観光資源という順番となるのではないのでしょうか。その並びに従ってそれ以降の並びも検討していくのがよろしいかと思えます。

依田委員長 ありがとうございます。その他、御意見がなければ次に進みます。それでは事務局をお願いします。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画骨子(案)のうち教育活動等の基本姿勢、教科指導について説明)

依田委員長 それではただいまの説明について御意見を賜りたいと思います。

浦島委員 学級数の案を見ても、新校は進学を目指す普通科がメインになると思います。生徒や保護者が目にしたとき、余り国際に関する学科についての記載を先に持ってきてしまうと、秩父高校は国際高校なのかというイメージを持ってしまいかもしれないので、守屋校長の御指摘にもありましたが、どういう並びにするのが良いのか、もう少し検討していただくと有り難いです。

横田委員 新校を進学校にするのか国際高校にするのか、そこがかなり重要なのではないかと思います。普通科の中に国際を学ぶ選択コースを作るのか、普通科4クラス、国際に関する学科1クラスとなっていますが、分配も含めてよく検討した方がよろしいのではないのでしょうか。

依田委員長 横田委員の御指摘は、国際高校をどこまで打ち出していくかということによろしいですか。

横田委員 県教育委員会が打ち出した今回の再編計画では、国際に関する高校の設置と書いてありますよね。今のお話ですと、進学校や普通科の方が多くですとか、国際に関する学科は5クラス中の1クラスしかないんですよ。果たしてこれで国際学校と言えるのでしょうか。例えば普通科の中に国際も学べるコースを新設しますとか、普通科の中に進学校としての要素があるなら良いと思うのですが。

依田委員長 国際に関する学科というのはそもそもどういう性格のものなのか、委員の共通理解を図るためにも、事務局から説明いただきたいと思えます。

事務局 進学校なのか国際に関する学科を設置する学校なのかという対立軸では考えておりません。進学校については、多様な進路選択がある中で、専門学校も含め、結果として進学する生徒が多い学校を世間一般では進学校と言います。今回、進学校を目指す学校ということコンセプトに盛り込んでいるわけではありません。学校の取組の結果としてそうなるものだと考えています。また、浦島委員から、これまでの秩父高校の取組がそのまま書かれているだけではないか、という御指摘をいただきましたが、我々としては、2校の統合ですので、これまでの両校が取り組んできたものをベースに考えています。ですので、なぜここで国際に関する学科というアイデアが出てきたかと言いますと、秩父高校が既に国際的な学びをやっているから、ということが理由の一つでもあります。また、委員長からお話があった外国語科と国際に関する学科の違いについてですが、外国語科は埼玉県が先駆け的に設置したのですが、全国的には随分減ってきていて、語学だけに特化した学校は少な

くなりました。それよりも、語学だけでなくもっと幅広い学びができる国際科という名称の学科を置いている学校が増えてきております。例えば、地理の教員と家庭科の教員が協力してアラブの食文化を学ぶ授業を展開する際、地理の教員が文化を教え、家庭科の教員が実際の食物について教える、といったことなどが挙げられます。更にそれを学んだ生徒が、将来旅行や仕事でその地域に行ったときに学んだことを役立てる、といった国際的な教養を身に付けるようなイメージを持っています。蛇足になりますが、若林委員からお話のあった1市4町の首長からの要望書の中では、国際に関する学科の設置について「我々が望んでいた学科ができるのはありがたい。がしかし」という一定の評価をいただいております。そういったこともあり、前回の委員会でも、国際というと秩父地域外に出て行ってしまっていて戻ってこないというイメージが強い、という話が出ましたが、本来的には、日本のどこに住んでいてもグローバルな視点は必要となりますし、国際的な交流や接点は必ずあると思います。また、コンピュータを使えば画面の向こう側には外国があるという世界ですので、そういった人々とつながって上手くやっていけるような社会人を育てたいという意味があります。これが国際科の狙いです。進学校と国際科は異なるカテゴリーであると認識しておりますが、例えば同じ第2期で設置する和光新校は和光国際高校と和光高校を統合して開校しますが、現在の和光国際高校は、外国語科を置いた進学校です。進学校は後から付いてくるというイメージを持っています。

依田委員長 全体5クラスのうち国際に関する学科が1クラス、という点については、いかがでしょうか。

事務局 先ほど話題に上げた和光国際高校も、普通科と外国語科が併置されている学校ですが、この外国語科を国際に関する学科に置き換えようとしています。和光高校との統合なので和光高校のレガシーを加えながら進めていこうと考えています。和光国際高校の普通科は、普通科でありながら大変国際色のある学びが展開されております。外国語科が設置されているので、外国語科を教える教員スタッフがそろっておりますから、その教員が開講する選択科目が選べたりします。普通科と専門学科の違いですが、専門学科はその学科に関する単位を25単位以上修得する必要があり、普通科の生徒にはそこまでの条件はありません。どれほど専門学科の科目を学べるかは学校にもよりますが、多彩な学びができるという点においては、普通科のみの学校よりも色が付いた普通科と言えらると思います。普通科の特色を説明するのは難しいのですが、専門学科が併置されている効果、強みはあると考えています。

大沼委員 国際に関する学科について、我々委員にもピンと来ていないということは、保護者や地域にもピンと来ないということではないでしょうか。何度も同じことを聞くことになってしまいますが、秩父高校の、進学を重視した創造的な学びを実践する学校という良さは無くしてほしくないと考えています。進学校と言うかどうかは別にしましても、秩父高校がこれまで果たしてきた役割はしっかり引き継いでいてもらいたいと思います。それと、地域に根差した活動をしている皆野高校との統合なので、そういったことも引き継げる学校あるいは学科を設置してもらいたい

と、地元の人間の意見として思っています。学科名が多少分かりづらいということになっても、そういったことができれば、地域の方々には理解するのではないのでしょうか。県としては国際に関する学科を打ち出したいのだと思いますが、このままいくと、最初は何とかなるかもしれませんが、近いうちに希望する子供が少なくなり、長くは続かないのではと危惧しています。

依田委員長 ありがとうございます。御意見として踏まえていただければと思います。その他いかがでしょうか。

飛川委員 本委員会の出席に向けて事前に上席とも資料について話をしました。普通科と国際探究科ができる新校の基本理念等を見ていて、書いていることが一つなので、はっきりとした学科の区別というか、差が分からないよね、という話題が出ました。普通科と国際探究科という明らかに違う学科があるのに、例えば育てたい生徒像などは国際に関する記載ばかりで普通科はどうなったのか、といったように、学ぶ内容等をしっかり区別化しておかないと、どんな学校を目指しているのか分からなくなるのでは、と思います。極端に言えば国際探究科を5クラスでも良い気もしますし、普通科でコースを作って、単位制などで多様な科目を選択できるようにするのも一つの方法かもしれません。また、守屋委員から目指す学校の記載順の話がありましたが、私もそう思います。まずは新校としてどのような人材を育成したいのか、その人材が地域にどう貢献していくのか、ということを考えていかないといけないのではないのでしょうか。国際探究科ありきで話が進んできているので、普通科はどこに行ってしまったのかという思いが少しあります。これなら5クラスすべて国際探究科でも良いのでは、と短絡的ですが思っています。

依田委員長 ありがとうございます。こちらの御意見もよろしいでしょうかね。その他いかがでしょうか。

浦島委員 今年も秩父高校の交流事業で募集をかけたら、すごい数の生徒さんに手を挙げていただいたんですね。恐らく校長先生も困っているのではないかと思います。それを普通科と国際探究科で分けてしまっただけで、国際探究科の生徒にしか留学や国際交流の機会が得られないのは望ましくないと考えます。秩父には外国の方もたくさん来られますし、外国の方と交流するのは当たり前になっています。一部分がやるというのではなくて、全体の中で普通科も含めてやっていくのが良いと思います。カリキュラムの話になるのかどうか分かりませんが、2年生から国際探究のコースに選べるとか、そういう形の方が、私はしっくりくるのではないかと思います。基本的にはやはり普通科があって、県としてどうしても国際に関する学科を入れたい、ということであるならばそれはそれなのですが。後は、皆野高校は地域に根差した取組を行っていますけれども、私が学科を作るとしたら、地域観光資源科とか、地域に密着できるような生徒さん、卒業したら即、地域で働いていただけるような即戦力として、高校生の中にいろいろな企業や観光等の仕事を体験して、地域で活躍できるような学科もありなのかと考えています。

依田委員長 大沼委員、飛川委員、浦島委員の御意見に共通するのは、普通科の中に国際探究コースを置いてはどうかというお考えではないかと拝察します。学科とコ

ース制の違いについて、事務局から説明いただきたいと思います。

事務局 県内にもコースを置いている普通科はいくつかあります。コースは通常普通科に置かれます。高校の卒業要件は必要な科目を74単位以上修得することですが、そのうちの3分の1に当たる25単位以上専門の科目を修得すると、専門学科の学びを修了したことになります。コースだと普通科の学びの中で専門の科目を24単位まで取り入れることになり、これは普通科の卒業となります。県では普通科と国際に関する学科を設置するとお示ししておりますので、専門学科として25単位以上専門の学びを行うこととなります。普通科と専門学科の併置校の場合、専門学科の学びはいろいろな意味で普通科の生徒に影響します。例えば先ほども話題になりました国際交流などは、通常、全校生徒を対象に募集を行います。校長の立場からすれば多くの生徒にチャンスを与えたいということになると思います。国際交流は教育課程に位置付けられたものではありませんから、どういう生徒が参加しても良いという考え方があります。遍く広くいろいろなことを学ぶというのが普通科の最大の特色で、その特色を活字にしていくはなかなか難しい部分があります。ですから国際寄りの記載になっているというのは、皆様の受け止めのとおりで、我々も工夫が足りなかったのかもしれませんが、各学校から挙がってきたアイデアもそのような観点で書かれているということも含めて、考えていただければと思います。

依田委員長 修得単位数が違う、ということですかね。他はいかがでしょうか。

若林委員 参考資料1にグローバル人材とありますが、これはグローバル人材の間違いでしょうか。またこの資料は誰を対象に書いたものか分かりませんが、アントレプレナーシップやリテラシーなど、なかなか一般の人にはよく分からない表現があるように思います。もう少し分かりやすくした方が良いのではないのでしょうか。

依田委員長 今の御意見と資料の性格について説明をお願いします。

事務局 参考資料1の両校案は、第2期実施方策を策定した直後に両校の管理職に、新校のビジョンをいかに描くかということのを伺い、いただいた意見です。校長や教頭が教育局に向けた内部的な意見であり、そういった言葉遣いになっています。その意味では少し不親切だったかもしれませんが、横文字もいくつかありますが、全て原文ママとなっています。グローバルというのは、前回安藤委員からも御意見をいただきましたが、グローバルとローカルを組み合わせた造語です。我々の狙いと合致するところなのですが、国際的な感覚や教養を持ちながらも地域で活躍するという意味で使っています。アントレプレナーシップは通常、起業家精神と訳されます。単に起業するだけでなく、開拓精神なども含めて表現しています。情報リテラシーは情報活用能力と訳すことができるかと思います。昨今ICT機器の発展が目覚ましいため、そういった機器を正しく、自由自在に使えるように、という思いがあります。

依田委員長 私の進め方が悪く大変恐縮ですが、予定していた時間を少々オーバーしても構わないでしょうか。都合が悪い委員は挙手をお願いします。御認めいただけただということでこのまま続けます。まだ御発言いただいていない安藤委員から御意見をいただきたいと思います。

安藤委員 これまでの議論を伺っていると、一番大きいところは学科についてかと思うんですけども、何のために分けるのか、そもそも分けなければいけないのか、といった点がすごく大きいところではないかと思います。2つの学校を統合するので、全て同じ学科で良いのではないかという考え方もありますし、1つにするとしたらどんな学科が良いのか、分けるとしたらどんな観点で分けるのか、という点について、まだ一番大事なところの合意が明確ではないのかなと思います。分けるとすると何のためにどういう視点で分けるのかという点について、もう少し議論しても良いのかと思います。例えば浦島委員御指摘のように、普通科と地域観光資源科というのは余り無理なく分けられる一つの考え方かと思います。国際1、普通4という割合もそうですし、なぜ国際と普通で分けるのか、といったところで、皆さんと十分に合意ができていないと思いましたので、そこが大事なところではないかと思います。また、細かいところですが、子供や保護者が見るという観点を踏まえると、人材を育成するより人間を育成する、の方が良いのではないのでしょうか。言葉の使い方についても検討されても良いのではないかと思いました。後、ICTの活用とありますが、5～10年前だったらこの表現はかなり新しかったと思いますが、チャットGPTのような話になってくると、もっと先に話がいていて、東大の声明でも、結局は体験学習のようなことが大事になってくるといことも言われていました。ICTの活用は余りにも普通になっているので、これだけだと学校の魅力、柱とすると少し弱い気がします。

依田委員長 ありがとうございます。廣川委員は何かありますか。

廣川委員 今回の統合は、両校のレガシーを引継ぎながら次の時代の新しい学校を作っていくものであると認識しています。今はどこに住んでいても常に国際的な環境というものがあるように思います。これから育っていく子供たちは、小学生の段階から国際社会の中の一員であるという意識を持って育っていく必要があると考えています。そういう意味で、国際に関する学科がある高校が秩父地域にできる、ということは有意義なことだと思います。その中において特に国際探究科では、地域の活動を取り入れながら、地域と世界をつなげていくような学びを展開できれば良いと考えています。ただ、それを全部の学校でできるのかということとニーズ等の関係もありますので、なかなか難しいかもしれません。国際という観点が根底にありながら普通科の学びを行い、国際探究科の方ではもう少し活動的な部分に力を入れていくと良いのではないのでしょうか。国際という言葉が持つ意味はかなり幅が広いと考えます。その中にどういう色を付けていくかということについては、委員の皆様からの御意見を踏まえ具体的に落とし込めれば良いと思います。

依田委員長 ありがとうございます。様々な御意見をいただいていますので、基本計画を文章化する上で、事務局で十分に思いを踏まえて対応いただきたいと思います。基本計画の中身については、次回委員の皆様事務局から御説明差し上げます。それでは田島委員から御意見いただければと思います。

田島委員 秩父高校と皆野高校の取組については委員の皆様は既にご存じかと思いますが、秩父高校には秩父高校の今までの役割と言いますか、地域の中で秩父高校の

生徒は四年制大学や短大、専門学校などに進学して、保育士だったり教員になったりしているかと思います。その反面、皆野高校は子供たちが地域と触れ合い、体験しながら仕事に就いていく、そんな場所だと思っているんですよね。昨年度、皆野高校ではみそぽてサブレを発売しました。そういった活動を通して、自分たちにもこんなことができるというのを体験しながら覚えていきます。新校になっても、中には進学ではなく就職を目指す生徒も出てくるかと思いますが、皆野高校でできた体験も入れていただけると良いと思います。それぞれの学校の役割が1つにできたら良いのではないのでしょうか。その中で何が魅力なのかというところを、普通科や国際科というところに縛られず、上手くできたら良いなと思っています。つたない説明で理解いただけるか不安ですが、他の委員の意見を伺いながら、良い学校にできたら良いなと思っています。

依田委員長 学科を問わず体験的な学びをという御意見、事務局でよく踏まえていただきたいと思います。生徒指導・進路指導・生徒募集・その他、事務局からまとめて簡潔に説明いただきたいと思います。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画骨子(案)のうち生徒指導、進路指導、生徒募集、その他について説明)

依田委員長 ありがとうございます。全体を通して御意見ございますでしょうか。

飛川委員 質問が2点と要望です。入学者選抜について、学校選択問題を採用している学校が昨年度12校ありましたが、学校選択問題を採用するに至る経緯を教えてくださいと思います。同じく傾斜配点は県教委が決めるのでしょうか、学校が決めるのでしょうか。中高連携という意味では、中高一貫校ではないのですが、1市4町と新校の連携がこれからとても大事になってくると思いますので、秩父市教委としても引き続き、連携を図ってまいりたいと考えます。御協力の程、お願いしたいと思います。

依田委員長 では、御質問について、事務局からお願いします。

事務局 学校選択問題の採用の是非及び傾斜配点は学校長が決め、公表することになっています。もちろん教育委員会が取りまとめておりますが、基本的には学校内で検討することになります。中高連携については、我々もとても大事であると思っています。かつて小鹿野高校は連携型中高一貫をやったことはありますが、そういった過去の事例も含め、いろいろなアイデアがあると思いますので幅広く考えていきたいと思います。引き続き、秩父市、皆野町とは良い関係を築いてまいりたいと存じます。よろしく願いいたします。

小菅委員 生徒募集について、普通科同士の統合なら進学とか国際をうたうのがよろしいかと思いますが、県として秩父高校の良さと皆野高校の良さ、具体的に言えば皆野高校の商業科の良さを残した統合ということで考えるのであれば、生徒募集に関して、その点について表現されていた方が中学生にとっても分かりやすいと思います。進学校としての秩父高校の役割があり、皆野高校の役割とすると地域貢献する子供たちがいて、観光に力を入れる子供たちがいて、大学進学しなくても秩父地域で働く子供たちがいていいと思いますので、普通科とは違うもう一つ別の学科が

あっても良いのではないのでしょうか。その辺りをしっかり整理した方がよろしいか
と思います。

依田委員長 ありがとうございます。それでは最初に戻りまして、学科名と学級数
について改めて御意見はございますか。両校長先生はいかがでしょう。

守屋副委員長 各委員から御意見をいただいた中で、県としては昨年度策定した実施
方策の国際に関する学科に余りこだわらなくても良いのではないかと
いうところを踏まえていただければと思います。後、探究について、今は流行りでよろしいか
と思うのですが、これから10年、20年を考えると、余り流行り廃りに流されない
方が良いのではないかと思います。一人の委員の意見として捉えていただければと
思います。

浅見副委員長 国際探究科に代わる良い学科名がないか検討しましたが、長くなつた
り説明っぽくなってしまったり。県として国際に関する学科を設置するとうたっ
ている以上、国際が付く学科名で中学生にビビっときたり、地域の子供が入学してみたい
と思ったりするような学科名があれば良いと思うのですが、なかなか思いつか
なくて。そういった意味では、間に合うのであれば中学生や中学校の先生からアンケ
ートを取るのも有効だと思います。ただ、私は国際探究科でも良いのかなと思ってい
ます。秩父から世界へと掲げて皆野高校もいろいろな内容に取り組んでいます。秩父
から世界へ、そして世界に通じる秩父人を育成するという、そういった感覚で、普通科
あるいは国際に関する学科について検討を進めていければ良いと考えます。普通科
についても、ただ受験勉強をして進学、進学ということではなく、新学習指導要領
でも地域と触れ合う協働による探究活動を行うことを推進しています。先日も秩父
のおもてなしTVに秩父高校が地域と連携した活動で出演していましたが、皆野高校
でもそういった活動はよく行っていて、明日も取材を受ける予定になっています。今年
だけでも4回取材を受けています。それは取材をしてみたいと思うような地域での
取組を先生方が生徒と共に発案しているからだだと思います。先生方にとっては取材
を受けることに大変さはあると思いますが、生徒の自信につながるという取材に対
応していただいています。なかなか秩父地域外からは生徒が集まらないのですが、秩
父鉄道で熊谷方面からも通えるということもあり、皆野高校は面倒見が良いからと
いうことで、具体的には中学校の時に不登校経験がある生徒でも皆野高校に入学し
て学校に通えるようになった生徒もいます。検定試験に合格して高度な資格を
取得し大学に進学したり、教員になるような生徒もいます。人生を変えることのできる
学びに取り組んでいる皆野高校のレガシーが生きるような新校になってほしいと、
皆野高校の校長として思っています。国際的な学びというものは現在全ての学科に
必要です。普通科、総合学科、専門学科の3種類の学科がありますが、国際に関する
学科は農業科や工業科と同じく専門学科になります。専門科目25単位以上を学ぶ
ことで、国際に関する学科の学びの内容が具体的に決まってくるのだと思います。
秩父から世界へ、世界に通じる秩父人を育成するということで、普通科であっても
国際に関する学科であっても、商業に関する学科であっても、この場の発言とし
ては不適切かもしれませんが、本当は新校に商業科を残してもらいたかったとい
う思いはありま

したが、それはもう叶いませんので、皆野高校の商業に関する学びを普通科においても国際に関する学科においても行うことができると良いと思っています。何か良い案があれば参考にしたいと思いますが、県の方も頭を悩ませているところだと思います。今後の協議になるかと思いますが、国際探究科では分かりにくいといった御意見もあり、学科名については難しいなと思うところもあります。

依田委員長 ありがとうございます。時間も大分押してまいりましたので、全体を通して、最後に何か御意見があればお願いします。

浦島委員 学科名と学校規模は、今日決めなければならないのでしょうか。

依田委員長 本日いただいた御意見を踏まえ、次回委員会までに基本計画（案）の文章化の作業に入ります。その期間で、各学校と事務局で調整していくこととなります。委員の皆様との調整は断続的に行うことになり、今日のところは御意見をいただくという段階です。それでは冒頭、松本委員から出たアンケートの件について、中学生や保護者の意見をどのように考えているのか、事務局から説明いただきたいと思います。

事務局 現在は、新校基本計画検討委員会で案を検討し新校準備委員会で意見を伺っている段階であり、まだ固まっていない状況です。この状況で中学生に意見を聞くというのは少し難しいと考えています。この先、それぞれの市町の教育委員会とも相談、調整をしていかなければならないということもあります。基本計画という大きなコンセプトに対して、中学生からは、制服など学校生活に関する意見をたくさんもらうものと想定しています。第1期の児玉新校、飯能新校もそのような状況がありました。ですので、それくらいのタイミングで中学生の意見を聞ければ良いのではないかと考えています。学級数や学科をどうするかという点については、皆さんと意見を交換しながら事務局で策定をしていきます。全体としてそういった流れを想定しています。

依田委員長 今の説明に対して御意見はありますか。30分近く予定を超過してしまい申し訳ありません。浦島委員からの御質問でもありましたが、本日いただいた意見を踏まえて基本計画の文章化に入ります。文章化をしていく中で両校を通じて皆様に相談にあずかることがあると思いますが、その際は大変恐縮ですが、引き続き御意見をいただければと思います。若林委員からの御意見については私があずかりましたので、調整して後ほど回答いたします。

事務局 冒頭に話題に出た志願倍率の件ですが、外国語科の倍率は不安定なところがあると説明しましたが、今確認したところ、外国語科を設置する学校は県内に7つありまして、その令和5年度の志願倍率は1.20倍でした。その前が1.25倍なので少し下がったと言えれば下がりましたが、普通科が1.12倍くらいだったので、それよりは少し良かったということが言えます。

依田委員長 これからは外国語科と国際に関する学科をなるべく一緒にしないで説明した方が良いと思います。外国語科とは違うイメージで、体験活動ですとか本日いただいたような御意見を、国際に関する学科の中で充実させていく必要があると思います。